

終助詞 確認テスト（願望・禁止・詠嘆） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾 解答・解説

問1 禁止。／「な～そ」は副詞「な」と終助詞「そ」で動詞をはさみ、やわらかい禁止「～してくれるな・～しないでほしい」をあらわす。

問2 ひどく泣くな（そんなに泣いてくれるな）。／「な泣きそ」で「泣くな」というおだやかな禁止。「いたく」は「ひどく・たいそう」。

問3 イ。／「ゆめ～な語りそ」で「決して語ってくれるな」という強い禁止。「ゆめ」は下に禁止を伴い「決して（～するな）」。

問4 禁止（～するな）。／終止形などに付く終助詞「な」は「～するな」という直接的な禁止。「急ぐな」＝急ぐな。

問5 イ。／「ばや」は未然形に接続し、自己の願望「～たい」をあらわす。「帰らばや」＝帰りたい。

問6 「ばや」は自分自身の願望（自分が～したい）をあらわすのに対し、未然形接続の「なむ」は他人・対象への願望（相手に～してほしい）をあらわす。願いの向かう先（主体）が異なる。

問7 もう一度聞きたい。／「聞か（未然形）+ばや」で自己の願望「～たい」。「今ひとたび」＝もう一度。

問8 イ。／未然形に接続する「なむ」は他者・対象への願望「～してほしい・～してくれ」。「あら（う変「あり」の未然形）+なむ」で、「あらなむ」＝（変わらずに）あってほしい。

問9 他者・対象への願望（～してほしい）。／未然形に接続する「なむ」は、いずれも「～してほしい」という他への願望をあらわす。（完了「ぬ」+推量「む」の「～てしまうだろう」とは別。接続が連用形か未然形かで見分ける。）

問10 月が出てほしい。／「いで（未然形）+なむ」で他者（対象）への願望「～してほしい」。

問11 他者（対象）への願望（～してほしい）。／「来（こ・未然形）+なむ」で「春が来てほしい」。「いつしか」は「早く（～ほしい）」の気持ちを添える。

問12 ウ。／「もがな」は願望「～があればなあ・～がほしいなあ」。「よき友もがな」＝よい友がいればなあ。

問13 願望（～があればなあ・～がほしい）。／「思ふ心もがな」＝（桜を惜しむ）気持ちがあればなあ。

問14 （物・状態が存在することへの）願望「～があればなあ・～であればなあ」。／「もが」「もがな」「がな」はいずれも願望をあらわす終助詞。

問15 詠嘆（～だなあ）。／「かな」は体言や連体形に付いて感動・詠嘆「～だなあ」をあらわす。

問16 よ。／「降りけるよ」の「よ」が詠嘆・呼びかけをあらわす。（⑮の「は」も可とするが、ここでは⑭の「よ」を抜き出す。）

問17 エ。／「よ」は文末で詠嘆・呼びかけをあらわす終助詞。「降りけるよ」＝降ったことよ。

問18 詠嘆 (～だなあ・～ことよ)。／「は」は文末で詠嘆・感動をあらわす(「を・よ・ゑ」も同類)。「静かなるは」＝静かであることよ。

問19 ウ。／「かし」は文末に付いて念押し「～よ・～ね」をあらわす。「言へかし」＝言えよ・言うがよい。

問20 「な～そ」は動詞をはさんで「～してくれるな・～しないでほしい」というやわらかい・おだやかな禁止を、文末の「な」は「～するな」という直接的で強い禁止をあらわす。同じ禁止でも丁寧さ・強さが異なる。

問21 (1) 自己の願望 (2) 他者への願望 (3) (物・状態の) 願望 (4) 詠嘆 (5) 念押し

問22 連用形。／「な～そ」の間の動詞は原則連用形(四段・上二段・下二段など)。ただしカ変・サ変は未然形(来〔こ〕・せ)となる点に注意。